

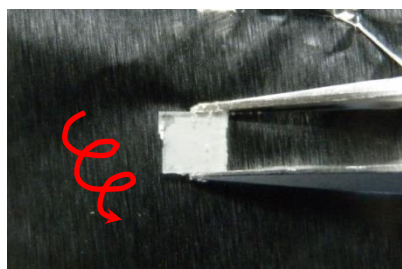
KBrプレート法で より正確なスペクトルを得る為のテクニック

KBrプレート法では、成形時のサンプル粉末の偏りにより、吸収の強いピークが伸びづらくなります。サンプルをまんべんなくKBr板に広げることで、ピークの伸びの悪さを極力抑制できます。アルミホイル上で均一にサンプル粉末をKBr板に広げてから成形すると、サンプルを均一に広げることができます。

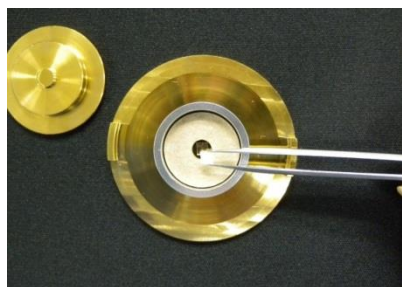
①アルミホイルの上に広げたサンプル粉末にminiKBrプレートを押し付ける。



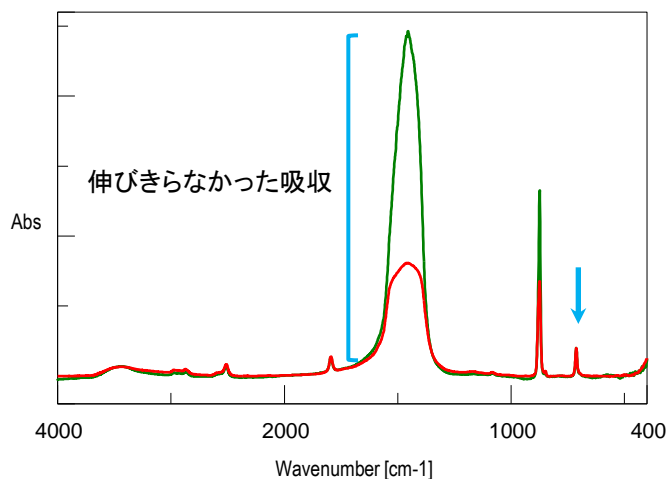
②KBrにサンプルが張り付いたら、サンプルのないアルミホイル上でこすりながら不要なサンプルを落とし、平らにならす



③成形器にあらかじめもう一枚のKBr板を入れておき、サンプルの付いたKBr板を載せ、成形する



— 炭酸カルシウム_アルミホイル上でのサンプリング
— 炭酸カルシウム_プレートに直接載せサンプリング
710cm⁻¹の吸収(↓)で規格化表示
ベースライン補正済み



アルミホイル上



プレートに直接



Condition

透過法(φ5, BKG: KBrプレート), 分解 4cm⁻¹, FT/IR-4000シリーズ

Master's Memo

- サンプル粉末をあらかじめ乳鉢ですり潰しておく、均一に広がり易く、散乱の影響を抑えられます。
- サンプルによってはKBrに付きにくいものもあります。その場合はTG1006もご参照ください。